2 Gp- 3

# 家庭用プラスチック製品の使用実態と今後の課題

○松尾　多華*　牛腸　ヒロミ**　酒井　豊子***

(*セブンーイレブン・ジャパン、**聖徳栄養短大、***放送大学)

目的　家庭用プラスチック製品とは日常生活でよく用いる卓上用品、行楽用品、密閉容器等を指す。これらは比較的寿命が長いために資源・環境問題の対象として取り上げられることは少ないが、石油製品としての考察は重要である。そこで使用実態を調査し、製品性能を生かした使用法・表示等について提言するための基礎的事項を検討する。

方法　密閉容器等 8 品目に関する使用実態についてのアンケート調査、また実際に製品が有する耐久性等を把握するために、ポリエチレン、ポリプロピレン製の密閉容器を用いた実用性能試験を行い、その結果から今後製品に求められる性能等を検討した。

結果　アンケート調査からは、消費者は老若男女に関わらず物理的劣化を商品価値の消耗と考えていること、素材に関する正確な知識はほとんどないことが分かった。また試験からは、類似している密閉容器であっても素材別の使い分けが必要であること、ポリエチレンは冷凍時の強度劣化、高温加熱時の形態変化を繰り返すことによる耐久性の低下が見られること、臭いが強いものは一度染み込んだらほとんど落ちないことが分かった。今後の課題としては、生産者は表示の具体化、廃棄されたときの処分方法、内分泌撹乱作用問題を踏まえた素材の安全性確認に対する検討が必要とされる。流通者は素材に対する問題や電子レンジ容器等の需要が増加傾向にあることなどから、店頭での素材や使用方法の明示が大きな役割である。消費者は、従来ずっと生産者主導になりがちであった商品開発への提案を使う側の立場から積極的に行うこと、幅広い情報収集を莫大な量の商品選択に生かすことが要求される。